行政視察報告

総務文教常任委員会

８月４日、宮城県名取市
「市内全域デマンド交通なとりんくる」

名取市では、利用者の予約に応じてＡＩシステムが配車や運行ルートを生成する市内全域のデマンド交通「なとりんくる」を導入しています。そのルートに従い、同じ時間帯、同じ方面の利用者が６人乗りのミニバンに乗り合わせて移動する仕組みです。

利用者が自宅を登録した場合には、自宅と乗降場所約 280 カ所の間を移動することも可能で、主に電話やアプリで予約し、リピート率は約７割にのぼるとのことです。



８月５日、宮城県大崎市
「令和元年東日本台風の対応」

大崎市では、古くから度々洪水に悩まされてきましたが、ため池や用水路の整備、さらには３つの遊水地を設けることで、洪水リスクを軽減してきました。

しかしながら、令和元年東日本台風は、大崎市に観測史上最大の豪雨をもたらし、約 118 億円を超える甚大な被害を引き起こしました。複数の箇所で堤防が決壊した結果、鹿島台地域等において広範囲で家屋が浸水し、多数の住民が孤立するなどの深刻な被害に見舞われました。

現在では、この経験を教訓にハードとソフトの両面から防災対策を強化しているとのことでした。

環境産業常任委員会

７月30日、兵庫県姫路市
「食品ロス削減の取組」

姫路市では、ユニークなキャラクターのポスターやショート動画で食品ロス削減を呼びかけており、また、飲食店に「姫路市食品ロスもったいない運動推進店」への登録を促し、オリジナルドギーバッグ「お菊箱」を配布して食べ残しの持ち帰りを推進しています。さらに、賞味期限が迫った食品を割引販売するマッチングサービス「Utteco Katteco by タベスケ」を自治体で初めて運営するなど、さまざまな方法で食品ロス削減に取り組んでいるとの説明がありました。

７月31日、京都府京都市
「京都市南部クリーンセンター及び環境学習施設「さすてな京都」」

南部クリーンセンターは、ごみ焼却やバイオガス化、大型ごみの選別資源化を行う施設で、24 時間稼働し、発電した電力で年間約 10 億円の収入を得ています。施設には、環境学習施設「さすてな京都」が併設されており、ごみ処理の現場を公開し、また、トリックアートや煙突内部を活用した展望台など、来館者が楽しみながら学べる工夫が凝らされています。この施設は小学校の社会科見学にも利用され、市民の環境意識向上に貢献しているとのことでした。



市民福祉常任委員会

８月５日、山口県防府市
「リエイブルメント・サービス」

防府市では、高齢者の方が住み慣れた地域でいつまでも普通に暮らせる幸せの提供を目標に地域包括支援センター等の関係団体と連携し、短期集中予防型サービスを中心として、元の生活に戻る「リエイブルメント」の取り組みを令和３年度から本格実施しています。短期集中予防型サービスでは、リハビリテーション専門職等が生活課題や身体の状態を確認し、元の生活に戻るための目標を設定した後、３カ月間、全 12 回の通所サービスを実施し、「生活の不安を取り除く」ことなどを実現していきます。また、自信を持って地域で生活できるよう趣味活動やボランティア等の社会参加の場を整備しているとのことでした。

８月６日、広島県尾道市
「空き家対策」

尾道市では、建物所有者の管理意識の向上を促すための啓発活動に重点的に取り組むなど、空き家等の段階に応じた対策を推進しています。また、市内４地域で空き家バンク制度を創設し、ＮＰＯ法人等に運営を委託しており、利用者にとって連絡が取りやすい土日や夜間の対応が可能なこと、元々地域の活性化に取り組んでいたＮＰＯ法人に委託したため、地域の実情に根差した新規物件の掘り起こしができること等のメリットがあるとのことでした。

